

平成23年度上期（平成23年4月～平成23年9月）

渡島管内観光入込客数調査

渡島総合振興局 産業振興部 商工労働観光課

「観光入込客数調査」について

道における観光入込客数調査は、「観光入込客統計に関する共通基準」（H21年12月、観光庁）を踏まえ、平成22年2月に制定した「北海道観光入込客数調査要領」（H9年1月制定に準ずる）に基づき実施しています。

<調査対象市町村>

本調査は、全道の市町村を対象に調査しています。

<実人数>

1人の観光客が1回の旅行で複数の観光地点を訪れても1人と算出します。

1人の観光客が1回の旅行で宿泊施設に2泊以上滞在しても1人と算出します。

<総数>

市町村の実人数の単純合計です。（実人数に対して、延べ人数となっています。）

1 概況

- (1) 平成23年度上期（4月～9月、以下同様）の渡島管内の観光入込客数の総数は、約600万8千人で、前年度より約42万人減、対前年比で93.5%となっています。現行方法での調査を開始した平成9年度以降、最も少ない数値となりました。

（単位：千人）

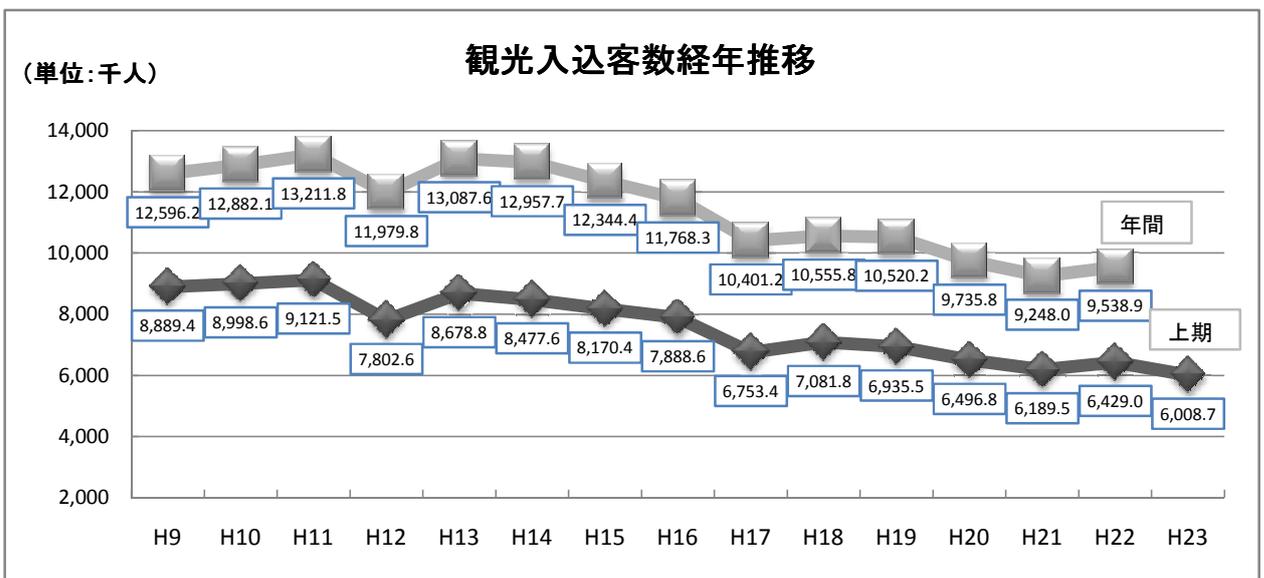
平成23年度上期	平成22年度上期	増減	対前年比
6,008.7	6,429.0	▲ 420.3	93.5%

- (2) 主な要因としては、東日本大震災の影響から、道外・外国人客を中心に大きく減少したためと考えられます。

特に、震災に伴う福島第一原子力発電所の事故の影響により、訪日旅行が大幅に手控えられたことから、4月については、函館空港国際便の全てが運休となりました。

- (3) 月別では、4～6月の震災直後は大幅に減少しましたが、7月以降は東北からの修学旅行生など、道外客を中心に回復しました。

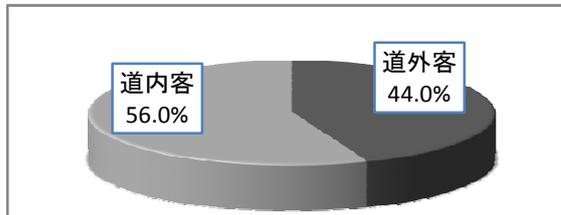
- (4) また、道内客が対前年比101.6%と増加しています。これは、これまで東北に行っていた道内の学校の修学旅行が道南地方に振り替えられたことが主な要因と考えられます。



2 道外客・道内容の状況

観光入込客数の総数 6,008.7 千人に占める道外客・道内容の状況は次のとおりです。
(単位：千人)

	平成23年度上期	平成22年度上期	対前年比
道外客	2,646.1	3,118.4	84.9%
道内容	3,362.6	3,310.6	101.6%



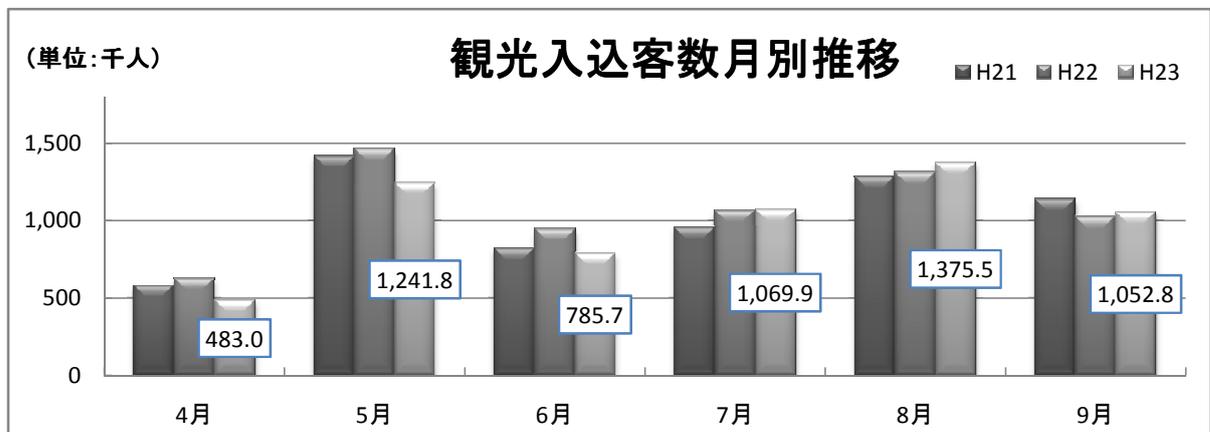
3 月別の推移

7月～9月まで前年同期を上回っています。

道内容の増加に加え、修学旅行生など道外客の増加や、函館空港の国内線が好調で昨年度並に持ち直したことによるものと考えられます。

(単位：千人)

	平成23年度上期	平成22年度上期	対前年比
4月	483.0	627.6	77.0%
5月	1,241.8	1,460.3	85.0%
6月	785.7	943.7	83.3%
7月	1,069.9	1,065.2	100.4%
8月	1,375.5	1,309.5	105.0%
9月	1,052.8	1,022.7	102.9%



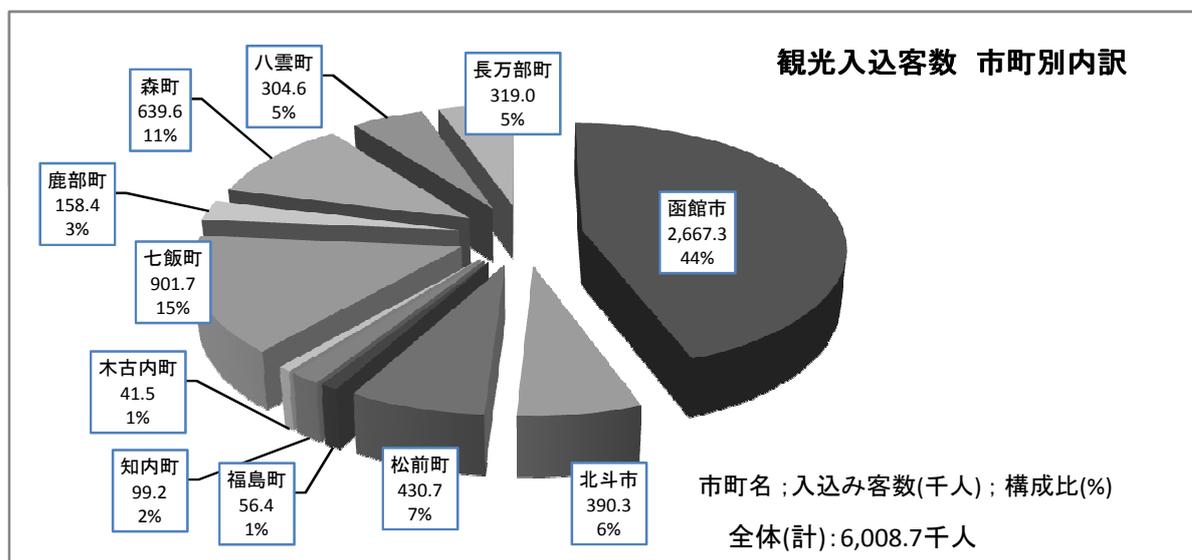
4 市町別の状況

函館市、七飯町など、5市町が前年度を下回りましたが、森町、鹿部町を含む6市町については前年度を上回る結果となりました。

増加した市町の主な要因としては、震災の影響に伴う近距離指向により、道内客が道内を周遊する傾向がみられたものと考えられます。

(単位：千人)

市町名	平成23年度上期	平成22年度上期	増減人数	対前年比
函館市	2,667.3	3,117.4	▲ 450.1	85.6%
北斗市	390.3	387.4	▲ 2.9	100.7%
松前町	430.7	446.6	▲ 15.9	96.4%
福島町	56.4	47.6	▲ 8.8	118.5%
知内町	99.2	88.6	▲ 10.6	112.0%
木古内町	41.5	34.7	▲ 6.8	119.6%
七飯町	901.7	988.9	▲ 87.2	91.2%
鹿部町	158.4	138.4	▲ 20.0	114.5%
森町	639.6	483.5	▲ 156.1	132.3%
八雲町	304.6	369.3	▲ 64.7	82.5%
長万部町	319.0	326.6	▲ 7.6	97.7%



平成23年度 渡島管内各市町観光客入込状況

(単位：「上段」千人 「下段」%)

市町名	入込数	内 訳				主 な 増 減 要 因 等
		道外客	道内客	日帰客	宿泊客	
函館市	2,667.3	1,581.5	1,085.8	1,025.8	1,641.5	3月11日の東日本大震災の影響から、国内における観光の自粛や福島第一原発事故の風評被害により、4月から7月までの観光入込客数は、前年同期に比べ約45万6千人(23.7%)の減少となったが、海外からのチャーター便の回復、また、震災後の東北地方への教育旅行誘致による修学旅行生の増加など、8月には、前年同期に比べ98.5%、9月には、102.8%となったところであり、併せて宿泊客数においても回復傾向となっている。
	85.6	79.3	96.6	82.1	87.9	
北斗市	390.3	21.5	368.8	378.8	11.5	震災の影響により道外客が減少(前年比-8.7千人)したが、道内客が増加(前年+11.6千人)したため前年との増減は小差に留まった。
	100.7	71.2	103.2	101.7	76.2	
松前町	430.7	90.3	340.4	382.7	48.0	桜の開花もほぼ予想通りとなり、道内の観光客が道内で移動し、道南へと足を向ける人も多かったと見られ4月の入込は若干、例年を上回った。 また、マクロ祭りのPRにも力を入れたことから、9月の入込も前年を若干、上回った。 全体としては、震災の影響で自粛ムードが全国的に広まる中、客足が鈍ったと思われるが、新幹線開業に向けたPR活動等の影響もあり、これまで東北に向いていた観光客の足が道南に向けられつつあるという事から、ほぼ例年通りまで持ち直した形となった。
	96.4	96.8	96.3	96.0	99.8	
福島町	56.4	5.4	51.0	54.7	1.7	ゴールデンウィーク時期の5月の入込数については東日本大震災及び例年開催している女相撲大会の中止の影響により約1割の減となったが、7月・8月は新施設の「海峡横綱ビーチ」の初年度オープンにあたり、約5割～7割の増となり、上期全体的には昨年度より約2割の増となった。
	118.5	125.6	117.8	118.4	121.4	
知内町	99.2	40.5	58.7	90.0	9.2	当初は東日本大震災の影響による観光客の減少が見込まれていたが、遠出を控え近場で観光する傾向になったことで、「道の駅しりうち」が昨年度より約2割の増となるなど、全体的に観光入込客数が増加した。
	112.0	111.3	112.5	111.8	113.6	
木古内町	41.5	3.4	38.1	40.3	1.2	スポーツセンターでの入込増や、「木古内まちづくり体験観光推進協議会」での道外からの体験観光の受入増加により、増加した。
	119.6	161.9	116.9	120.3	100.0	

※下段は対前年比

(単位：「上段」千人 「下段」%)

市町名	入込数	内 訳				主な増減要因等
		道外客	道内客	日帰客	宿泊客	
七飯町	901.7	622.2	279.5	849.6	52.1	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の影響により、4月は道内客・道外客を問わず激減。 ・5月の大型連休を境目として道内客を中心に客足がゆるやかに回復し、その中でも東北方面からの振替による修学旅行等の入込が増えた。 ・7月以降は徐々に回復し、結果として7～9月で平均約7%の増となった。 ・上期全体としては、前半の減少数を後半の伸びでカバーしきれず、約9%(約8万7千人)の減となった。
	91.2	91.2	91.2	89.8	121.7	
鹿部町	158.4	8.8	149.6	127.9	30.5	<ul style="list-style-type: none"> ・「8月開催しかべ海と温泉のまつり」での入込が前年度より約7割の増となるなど、道内客が増加した。
	114.5	59.9	120.9	101.5	246.0	
森町	639.6	92.5	547.1	597.6	42.0	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災による影響で、主に道内客が道内旅行をする傾向がみられたことや、学生の研修旅行先も道内へと変更されたこと、及び北海道駒ヶ岳の入山規制が緩和されたことにより道外からの登山客が増加したことが要因と考えられる。
	132.3	161.7	128.3	135.2	101.4	
八雲町	304.6	73.9	230.7	292.6	12.0	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に発生した東日本大震災の影響により、各施設の若干の減少傾向は見られるが、大きな要因はパノラマパークのアジア圏観光客が減少したことによるもの。
	82.5	77.5	84.2	81.9	100.8	
長万部町	319.0	106.1	212.9	307.9	11.1	<ul style="list-style-type: none"> ・道内のスポーツ合宿誘致の成果とまんべくん効果が震災による観光客の減少をある程度カバーした。
	97.7	97.7	97.7	96.9	123.3	
合計	6,008.7	2,646.1	3,362.6	4,147.9	1,860.8	
	93.5	84.9	101.6	94.9	90.4	

※下段は対前年比